

	日時	主題 / 会場	学習内容	講師 (敬称略)
第1回	7月20日 (土) 13:30～ 16:30	開講式 (講座開始前)	日高市の皆さんはまちの将来をどのように描かれているでしょうか。その将来像に向けて、ご自身はどう関わられるでしょうか。講演の前半では、地方都市における高齢者の生活行動特性、高齢社会のまちづくりの進め方についてお話します。後半では、こま武蔵台における持続可能なまちづくりに向けた取り組みの一端をご紹介します。	東京大学大学院 准教授 ひのきみひろ 樋野 公宏
		高齢社会とまちづくり 会場：生涯学習センター オリエンテーション (講義終了後)		
第2回	8月3日 (土) 13:30～ 16:00	食と環境 — すてないで活用する — 会場：生涯学習センター	食品は製造段階で廃棄される部位が多い。これらは産業廃棄物として環境に大きなインパクトを与える。一方、これらに価値のある成分が含まれていれば宝と変わる。私たちは、この廃棄される部位に着目し研究を進め、新たな機能性成分を発見し、これらが「7番目の栄養素」である可能性を発見した。持続可能な「社会」や「環境」を考えるヒントがあるかもしれない。	城西大学 薬学部 教授 まのひろし 真野 博
第3回	8月17日 (土) 13:30～ 16:00	外国人観光客誘致と 身体障害者補助犬のいい関係 会場：生涯学習センター	皆さんは、身体障害者補助犬を知っていますか？盲導犬、聴導犬、生活のサポートをする介助犬の3種類が日本で認められている補助犬です。海外では、日本と異なった枠組みで役割を担っている動物たちがいますが、外国人観光客を誘致するようになり、外国人観光客誘致と補助犬のいい関係が持続可能になるようにしていくことを考える機会としたいと思います。	東洋大学 国際観光学部教授 しまかわ たかし 島川 崇
第4回	9月7日 (土) 13:30～ 16:00	大嘗祭の始原を訪ねて シルクロードへ 会場：生涯学習センター	平成から令和へと改まり、11月には大嘗祭が執り行われます。日本古来の儀礼の中に、雲南・東南アジアをはじめシルクロード伝来の文化とのつながりを見ることができます。それをお互いに確かめてみましょう。	麗澤大学 名誉教授 かけはた みゆる 欠端 實
第5回	10月5日 (土) 13:30～ 16:00	万葉歌人・大伴旅人と梅花の歌 — 「令和」の典拠とその作者をめぐって — 会場：生涯学習センター	新元号「令和」は、『万葉集』に掲載の漢文を元に名付けられました。その漢文は、西暦730年の春に開催された梅見の宴会で詠まれた和歌の記録の冒頭に付された序文です。作者は、宴会の主催者であった大伴旅人（おおとものたびと）だと考えられています。講演では、大伴旅人とその作品について、わかりやすく解説します。	早稲田大学 教授 たかまつ ひさお 高松 寿夫
第6回	10月19日 (土) 13:30～ 16:00	マスメディア (新聞、テレビ、雑誌) は どうなるのか — 衰退するジャーナリズムについて考える — 会場：生涯学習センター	新聞、テレビなど、世界の出来事を伝え、物事を分析、解釈するジャーナリズムを抜きにしては、社会の動きを捉えることはできません。しかしながら、ネット時代になって、伝統的なマスメディアの衰退は加速する一方です。マスメディア、ジャーナリズムの将来について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。	早稲田大学 教授 のなか あきひろ 野中 章弘
第7回	11月2日 (土) 13:30～ 16:00	渋沢栄一の事業・経営理念 会場：生涯学習センター	近代日本社会の創造者・渋沢栄一。実業界のみならず、福祉・医療、教育・文化、外交等社会事業の面でも民間の立場で尽力し、オルガナイザーとしての位置づけも与えられる。今回は、道徳の伴う正当な利益を追求し、官尊民卑の打破を目指し、私益よりも公益を重視した渋沢の人間像、そして、その渋沢の事業・経営理念を探る。	渋沢栄一記念財団 渋沢史料館 館長 いのうえ じゅん 井上 潤
第8回	11月16日 (土) 13:30～ 16:00	どうするの？ 原発ゴミの最終処分場 — 子孫たちの未来 — 会場：生涯学習センター	原発事故から8年経っても福島の実地は先が見えません。原発さえなかったらとつい思います。またかとお思いかもかもしれませんが、原発の電気を使った私たち当事者が、子孫たちへのつけとして先送りするにはあまりにも忍びない。・核ゴミの最終処分場 ・再稼働の意味とリスク ・汚染との闘い ・低線量被曝のことについてお話して共に考えたいと思います。	元立教大学 理学部教授 ささきけんいち 佐々木研一
第9回	11月30日 (土) 13:30～ 16:30	人生100年時代と 日高ライブラリーカレッジのこれから 会場：総合福祉センター「高麗の郷」 閉講式 (講座終了後)	国際社会に生涯学習が提唱されて60年、日高市が取り組んで30年。この間日本人の寿命は大きく伸び、人生80年時代から今や100年時代と言われています。健康で生きがいをもって生き続けることはすなわち学び続けることと言われています。人生100年に向かって、何をどう学び暮らしを支える地域を豊かにするかの。	元日高町 生涯学習指導員 くどうひでお 工藤日出夫